



2023年4月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年12月7日

上場会社名 サトウ食品株式会社
 コード番号 2923 URL <https://www.satosyokuhin.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2022年12月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 佐藤 元
 (氏名) 佐藤 浩一
 TEL 025-275-1100

(百万円未満切捨て)

1. 2023年4月期第2四半期の連結業績(2022年5月1日～2022年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年4月期第2四半期	15,906	7.9	698	9.0	904	12.0	650	16.2
2022年4月期第2四半期	14,743		640	13.1	808	8.3	559	5.0

(注) 包括利益 2023年4月期第2四半期 695百万円 (52.3%) 2022年4月期第2四半期 456百万円 (26.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年4月期第2四半期	128.91	
2022年4月期第2四半期	110.89	

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年4月期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年4月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年4月期第2四半期	41,249	16,917	41.0
2022年4月期	36,345	16,475	45.3

(参考) 自己資本 2023年4月期第2四半期 16,917百万円 2022年4月期 16,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年4月期		0.00		50.00	50.00
2023年4月期		0.00			
2023年4月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年4月期の連結業績予想(2022年5月1日～2023年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,742	1.8	2,582	4.3	2,897	2.6	1,887	2.6	374.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年4月期2Q	5,075,500 株	2022年4月期	5,075,500 株
期末自己株式数	2023年4月期2Q	31,712 株	2022年4月期	31,687 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年4月期2Q	5,043,797 株	2022年4月期2Q	5,043,904 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の第7波による感染再拡大の影響を受けながらも、各種行動制限の緩和により、人々の動きや社会経済活動が徐々に正常化へ向かう動きが見られました。

しかし、一方で、ロシア・ウクライナ情勢の深刻化、急速な円安の進行等によって、原材料・エネルギー価格の高騰に起因する仕入れ価格・物流コストの上昇、これらによる商品価格の上昇に伴う個人消費停滞の懸念等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、昨今の生活スタイルの変化や消費者の購買行動の変化を背景として、家庭内で消費される食品に対する底堅い需要に支えられている反面、世界的な原材料・エネルギー価格の高騰を受けて各社で値上げ発表が相次ぎました。今後更なる物価上昇が懸念されているなかで、消費者の節約志向が高まるなど、引き続き厳しい経営環境となりました。

こうした環境変化を受けて、当社を取り巻く経営環境は「原材料価格の高騰」「新型コロナウイルス感染禍の継続」「それに伴う従業員の労働環境における安全の確保」「お客様への万全の供給体制の整備を最優先としたオペレーション」といった複合的な要因によって各種コストが上昇基調にあることもあり、今後も厳しい局面が続くものと予想しております。

このような状況のもと、当社グループは引き続き、安全・安心に重点をおいた包装米飯及び包装餅製品の安定供給、並びに適正価格での販売に努めることを基本に事業活動を推進してまいりました。具体的には、おいしさの追求はもちろんのこと、お客様の消費動向を捉えながら、多様化するニーズに対応可能な生産体制の整備を進めるとともに、新型コロナウイルスと“共生”する事を前提とした市場変化に対応すべく、「米食回帰・健康維持・多様化をキーワードとした新たな食の創造」を提案し、全社一体となった営業活動に取り組むことで業績の拡大を図ってまいりました。また、前年に引き続き包装米飯及び包装餅双方の通年需要の喚起を目的とした広告宣伝を実施する事で、喫食機会とブランド認知の拡大に努めて参りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、包装米飯及び包装餅製品ともに主力製品を中心に堅調に推移し、159億6百万円（前年同期比7.9%増）となりました。利益面につきましては、販売の増加と生産性向上による利益率の改善を要因として、営業利益は6億98百万円（前年同期比9.0%増）、経常利益は9億4百万円（前年同期比12.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億50百万円（前年同期比16.2%増）と、いずれも前年同期を上回る結果となりました。また、当社グループは主力製品である包装餅が季節商品（特に鏡餅）であり、その販売が年末に集中するため、第3四半期連結会計期間の売上高及び利益が他の四半期連結会計期間に比べ著しく増加する傾向があります。

製品分類別の販売動向

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しておりますが、製品分類別における販売の動向は以下のとおりであります。

(包装米飯製品)

包装米飯製品は、近年の社会構造や生活様式の変化に伴い、パックごはん市場全体が拡大傾向にある中、新型コロナウイルス感染禍において「ストック」できることが、新たな食材選びの重要なポイントとされるなど、消費者の意識に変化が見られております。また、小麦を中心とした穀物の価格高騰を受け、価格が比較的安定しているコメの存在感が高まり、米食に回帰する動きが活発化しております。

これらの消費動向の変化を背景に、まとめ買いニーズへの対応や食物繊維で始めるおいしい新健康生活の提案など様々な販売促進活動により、包装米飯製品の「家庭のご飯に代わる」日常食化に取り組んで参りました。

また、通年需要の喚起を目的に、当社独自の厚釜炊き製法をアピールするテレビCM『サトウのごはん「ふっくら釜炊き編」』、「サトウのごはん8食パック」の発売に合わせたテレビCM『サトウのごはん「多幸（炊こう）感」』を引き続き全国放映いたしました。

これらの取り組みとともに、1988年の発売当初より「炊きたてのおいしさ」を目指してきた「サトウのごはん」がより多くの食卓に受け入れられ、パックごはん市場で確固たるブランドを確立したこと、さらに、電子レンジ調理などの簡便、時短調理等、家庭内での調理ニーズが多様化する中で、パックごはんが備蓄食ではなく日常食というポジションに変わってきていることも、売上高が堅調に推移した要因として捉えております。

その結果、包装米飯製品の売上高は115億47百万円（前年同期比9.7%増）となりました。

なお、当社は、約45億円を投じて当社のパックごはん専用工場である聖籠ファクトリー（新潟県北蒲原郡聖籠町）に新たな生産ラインを増設し、2024年の稼働時には年間4億食の生産能力を確保することで、将来的な需要拡大に対応してまいります。

(包装餅製品)

包装餅製品においても通年需要の喚起に積極的に取り組んでおります。

まず、これまで「プレミアムライン」、「レギュラーライン」、「トライアルライン」の3つにセグメンテーションしていた切り餅の商品ラインナップに、普段の生活や行動の範囲内で手を出せる高級品、いわゆる“プチ贅沢”需要にお応えする「プライムライン」を追加し、「サトウの切り餅 特別栽培米新潟県産こがねもち」を2022年9月1日より全国にて販売開始いたしました。

また、「サトウの切り餅/まる餅 乳酸菌プラス」において、人気アニメ「SPY×FAMILY」と合格祈願をテーマにコラボした特別企画商品「サトウの切り餅 乳酸菌プラス SPY×FAMILY デザインパッケージ全2種」の発売(2022年11月21日)を決定し、販売開始に向けて商品開発に取り組んでまいりました。

さらに、女優の芦田愛菜さんが当社グループのみが個包装に使用している酸素を吸収する「ながモチフィルム」の特徴(鮮度保持剤なしでつきたての美味しさを24か月保持)を紹介するテレビCMや、切り餅「いっぼん」のスティック形状を活かした様々な召し上がり方を消費者の皆様にご提案するテレビCMを継続的に放映することで、当社包装餅商品のブランド認知の深化に努めてまいりました。

加えて、餅商品の喫食機会向上と新たな消費者層の獲得を目的として、人気動画クリエイターとタイアップした動画制作等も行っておりました。

年末商材である鏡餅については、引き続きダウンサイジング化が全体的に進んでいることから、「どこでも簡単に飾れる手頃なサイズの鏡餅!」をコンセプトとし、お客様の様々なニーズにお応えするため、化粧箱入りの「サッと鏡餅」と、置き場所を選ばない「小飾り」タイプの品揃え拡充を進めてまいりました。

こうした商品コンセプトをベースに、幅広い層から支持を得ているアニメ「鬼滅の刃」のキャラクターを、昨年発売の「小飾りシリーズ」に加え、本年は化粧箱入りの「サッと鏡餅シリーズ」にも追加(2022年11月1日発売)し、年末の販売増加に向けての取り組みを実施してまいりました。

また、流通における取り組みとして、鏡餅を店舗で陳列する際の開封作業の軽減を目的として開発した、段ボールを開封するとそのまま商品の陳列ができる「簡単!楽ちん段ボール」を引き続き採用し、取扱店の拡大に努めてまいりました。

包装餅の販売は、昨年末から続く様々な食料品の値上げに対して、当社餅商品は従来通りの価格で販売提案を行った結果、小売店各社の売上対策と当社提案が合致したことで、例年以上に販促機会が増加し、売上高は堅調に推移いたしました。その結果、包装餅製品の売上高は43億48百万円(前年同期比3.4%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は215億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ53億47百万円増加いたしました。

これは主に現金及び預金が3億69百万円、仕掛品が2億82百万円減少したものの、商品及び製品が47億23百万円、売掛金が11億62百万円増加したことによるものであります。

固定資産は197億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億42百万円減少いたしました。

これは主に投資有価証券の新規取得および保有する投資有価証券の時価総額の増加により、投資有価証券が3億2百万円増加したものの、減価償却の進行に伴い有形固定資産が8億38百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は412億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ49億4百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は179億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ57億36百万円増加いたしました。

これは主に未払金が11億20百万円、1年内返済予定の長期借入金が2億33百万円、未払法人税等が1億75百万円減少したものの、運転資金としての短期借入金が58億50百万円、買掛金が13億66百万円増加したことによるものであります。

固定負債は64億24百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億75百万円減少いたしました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。

この結果、負債合計は243億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ44億61百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は169億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億42百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び剰余金の配当があったことによるものであります。

この結果、自己資本比率は41.0%(前連結会計年度末は45.3%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年4月期の通期(2022年5月1日～2023年4月30日)の業績予想につきましては、2023年4月期第1四半期決算短信(2022年9月7日公表)において公表いたしました通期の業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,665,818	1,296,644
売掛金	8,381,837	9,544,612
商品及び製品	1,862,194	6,585,340
仕掛品	579,128	296,267
原材料及び貯蔵品	3,521,282	3,504,653
その他	192,880	323,613
貸倒引当金	△7,720	△8,560
流動資産合計	16,195,422	21,542,571
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,581,764	5,416,727
機械装置及び運搬具(純額)	6,374,167	5,730,405
土地	2,343,620	2,343,620
その他(純額)	622,199	592,520
有形固定資産合計	14,921,751	14,083,274
無形固定資産	893,178	841,678
投資その他の資産		
投資有価証券	1,306,289	1,609,069
投資不動産(純額)	2,382,526	2,370,302
その他	674,457	832,042
貸倒引当金	△28,130	△29,160
投資その他の資産合計	4,335,142	4,782,254
固定資産合計	20,150,072	19,707,207
資産合計	36,345,494	41,249,778

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	829,338	2,195,875
短期借入金	3,100,000	8,950,000
1年内返済予定の長期借入金	2,611,878	2,377,918
未払金	3,982,159	2,862,021
未払法人税等	598,000	422,272
引当金	270,203	403,343
その他	779,463	696,394
流動負債合計	12,171,043	17,907,824
固定負債		
長期借入金	6,463,454	5,275,625
引当金	248,094	178,985
退職給付に係る負債	835,854	834,914
その他	152,007	134,706
固定負債合計	7,699,410	6,424,231
負債合計	19,870,453	24,332,056
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,775	543,775
資本剰余金	506,000	506,000
利益剰余金	15,016,367	15,414,392
自己株式	△37,619	△37,745
株主資本合計	16,028,522	16,426,421
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	504,358	532,438
退職給付に係る調整累計額	△57,838	△41,138
その他の包括利益累計額合計	446,519	491,300
純資産合計	16,475,041	16,917,722
負債純資産合計	36,345,494	41,249,778

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年5月1日 至2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年5月1日 至2022年10月31日)
売上高	14,743,260	15,906,261
売上原価	10,720,690	11,543,070
売上総利益	4,022,569	4,363,191
販売費及び一般管理費	3,381,733	3,664,831
営業利益	640,835	698,360
営業外収益		
受取利息	6	11
受取配当金	12,921	21,094
受取賃貸料	95,722	98,546
副産物収入	66,027	82,211
その他	73,127	80,149
営業外収益合計	247,805	282,013
営業外費用		
支払利息	16,462	17,573
賃貸費用	46,180	45,201
固定資産除却損	8,699	2,148
その他	9,104	10,515
営業外費用合計	80,446	75,439
経常利益	808,194	904,934
特別利益		
固定資産売却益	-	565
特別利益合計	-	565
税金等調整前四半期純利益	808,194	905,500
法人税、住民税及び事業税	120,239	382,231
法人税等調整額	128,625	△126,947
法人税等合計	248,864	255,283
四半期純利益	559,330	650,216
親会社株主に帰属する四半期純利益	559,330	650,216

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)
四半期純利益	559,330	650,216
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△119,359	28,080
退職給付に係る調整額	16,440	16,719
その他の包括利益合計	△102,919	44,799
四半期包括利益	456,410	695,015
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	456,410	695,015
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。